

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



左：マレーシア支部 支部旗授与、右上段：2015年10月、カンボジアプノンペン市 カンボジアサテライトキャンパス入学式、右下段：ガーナの学校の自立支援活動 近隣住民からも協力してもらい活動を進めている

Left: Inaugural meeting of the Malaysia Branch, Nagoya University Alumni Association; Upper-right: The Entrance Ceremony of Cambodia Satellite Campus, Phnom Penh, Cambodia, October, 2015; Lower-right: With local residents who supported NGO activities, Ghana

Contents

特集1 アジアと学び世界に挑む人材の育成・・・2

Learning together with Asian countries and fostering human resource for challenging the world

特集2 ガーナの学校の自立支援活動・・・4

Activities for self-reliance of schools in Ghana

活躍する会員たち・・・6
NUAL People in Action

同窓会ニュース・・・10
NUAL News

事務局からのお知らせ・・・16
From the NUAL Office

今号では、2014年8月に発足した名大アジアサテライトキャンパス学院の開設の背景および目的、ガーナの学校の自立支援活動に積極的に力を入れて取り込んでいる本学大学院生の活動をご紹介します。活躍する会員たちのコーナーでは計量経済学研究者と起業家として活躍している本学の卒業生2名の方よりご活躍の様子をお話いただきます。

In this volume, we first introduce background and objectives for establishing Asia Satellite Campuses Institute of Nagoya University which started from August, 2014. Next, we will share stories about NGO based activities for self-reliance of schools in Ghana by a master course student. The "NUAL People in Action" column shares stories of two alumni members from academic and business world in Japan.

アジアと学び世界に挑む人材の育成

Learning together with Asian countries and fostering human resource for challenging the world

名古屋大学ではアジアと学び世界に挑む人材の育成のため、30年以上構築してきたアジアネットワークを基に、2014年にアジアサテライトキャンパス学院が発足しました。名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院学院長の磯田文雄先生に名古屋大学におけるアジア展開の経緯、サテライトキャンパス学院の取り組みおよびそれに期待できることをご紹介します。

Nagoya University has been actively constructing its networks for mutual learning and fostering human resources in Asia since 30 years ago. Based this Asian network, Nagoya University established Asian Satellite Campuses Institute (ASCI) in 2014. Dr. Fumio Isoda, Director of ASCI, introduces us history of network in Asian of Nagoya University, mechanism of ASCI and expectation of ASCI.



名古屋大学
アジアサテライトキャンパス学院学院長
副理事（国際関係担当）
磯田 文雄

アジアへの目線

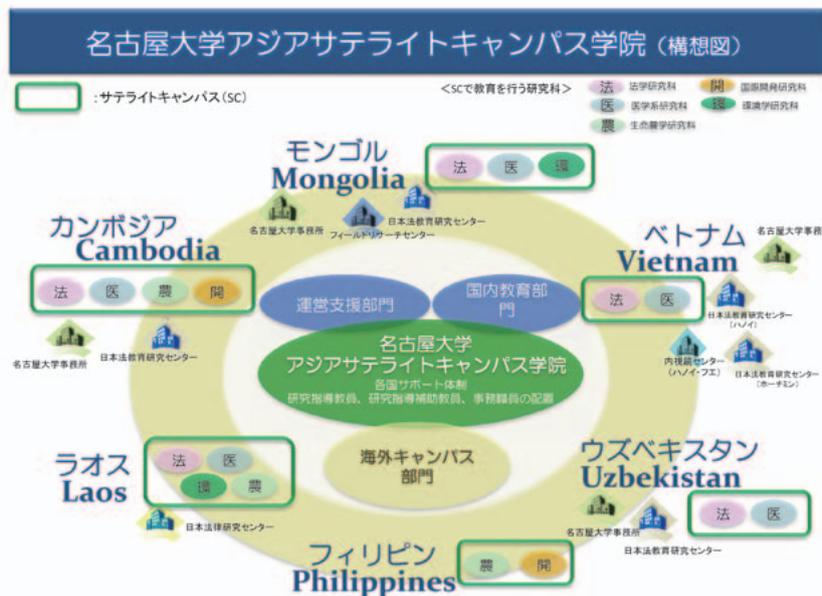
名古屋大学に国際開発研究科が創設され、本年（2016年）で25周年になります。本研究科が創設される少し前、1980年代の日本経済は極めて好調でしたが、名古屋大学人文社会科学系の大学院博士課程卒業生の就職は厳しかったと言われています。当時の博士課程卒業生の就職先といえば大学教員のポストでしたが、名古屋大学は東大と京大の狭間にあり、教官選考の最終段階において苦杯をなめることが少なくなかったそうです。そこで、他の大学が、まだやっていないことをやろうということになりました。その頃、名古屋大学のまわりには国連の地域開発センターや JICA の研修センターがあり、発展途上国から来た人たちが相手に名古屋大学の教員が出向いて講義を行っていました。何もわざわざ外で教えるくらいだったら、名古屋大学の中で教えた方が早いではないかということになり、国際開発研究科が平成3（1991）年創設されたというわけです。

その一年前の平成2（1990）年には、法学部において「アジア・太平洋地域法政研究教育事業」が企業・同窓生の寄付金をもとに開始されました。1990年代以降、多くの社会主義国が市場経済体制へと移行しました。これらの国々は、公正な市場経済のための法制度、法の支配の確立とともに、経済のグローバル化に伴い、法制度を国際標準に合致させる必要に迫られていました。しかしながら、その頃の日本の法律学といえば一般的に欧米志向でした。アジアの国々の課題に関心を持つ法学研究者は少なかったの

「自由闊達」な学風

名古屋大学は、昭和14（1939）年、最も若い帝国大学として誕生、多様性を許容し、個性を尊重する「自由闊達」な学風を誇り、ノーベル受賞者を含む優れた研究者や新しい時代を切り拓くことができる幾多の優秀な人材を社会に輩出してきました。

「自由闊達」な学風の理科系における象徴が、ノーベル賞受賞者の輩出（2001年化学賞の野依良治、2008年物理学賞の益川敏英、小林誠、同年化学賞の下村脩、2014年物理学賞の赤崎勇、天野浩、以上敬称略）です。名古屋大学は、最高水準の研究が集まる知と創造の拠点となっています。この「自由闊達」な学風の文科系における特色が、研究・教育の目線をアジア・太平洋地域に置き、アジア有数のハブ大学となるべく、研究・人材交流に注力してきたことです。



名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院（構想図）

です。だが、名古屋大学法学部は違っていました。その頃から、名古屋大学法学部には旧ソ連やベトナムなど、欧米以外の法律に詳しい教員がいました。「自由闊達」な学風も相まって、当時ほとんど目を向けられることのなかったアジアに約25年も前から視線を移してきたのです。平成14（2002）年には法学研究科から独立し、「法政国際教育協力研究センター（CALE）」が設立され、平成17（2005）年にはアジア各地に「日本法教育研究センター」を設置し、日本語による日本法教育を開始しました。

アジアネットワークの力

首相官邸でも、関係省庁においても、名古屋大学のアジア展開は高く評価されています。首相官邸から文部科学省に対し、海外におけるアジア展開のモデルは名古屋大学しかないのかといわれるほどです。文部科学省が名古屋大学を評価する理由の一つとして活動の継続性をあげています。文部科学省高官によると、多くの大学の海外拠点は一過性であることが少なくないのに対し、名古屋大学だけが唯一、継続的に教育研究活動を展開しているとのこと。では、なぜ、名古屋大学の活動は継続されているのか。そこには二つの理由があります。

第一に、海外との教育事業は、一定数の相手国学生を対象とするものであり、継続することが必要です。名古屋大学側の事情だけで中止することはできません。名古屋大学の各研究科としては、担当者が変わろうとも、財政が苦しくろうとも、継続しなければならないのです。我が国の多くの大学が研究のフィールドとしてアジアに展開していったのに対し、名古屋大学は教育を中心にアジアに入っていったところから大きな違いが生まれたのです。

第二に、法学、国際開発を始めとする名古屋大学修士生のネットワークが、アジア各国に展開されています。国際開発研究科を例にとると、2016年3月現在で、31の国と地域から本研究科で学んだ812人の卒業生が各地で活躍しています。卒業生のネットワークが教育研究事業の継続・拡充を支えているのです。同窓会組織の広がりも名古屋大学の力なのです。

アセアン共同体とともに

名古屋大学は、平成26（2014）年8月、アジアサテライトキャンパス学院を開設し、アジアの公務員を対象に、職を継続しながら名古屋大学の博士課程に学ぶことのできる事業を開始しました。テレビ会議、インターネット、教員の現地派遣及びスクーリングを駆使することにより可能となった事業です。平成26年10月に学生7人を受け入れ、



2015年10月 ウズベキスタンサテライトキャンパス開所式

平成28（2016）年10月1日には、6カ国にキャンパスを設置、5研究科の参加により30名の学生が本プログラムで学ぶこととなっています。開設から約2年が経過しようとしていますが、既に新たな動きが生まれつつあります。アセアン共同体とともに活動するという視点です。

平成27（2015）年12月、フィリピン大学機構ロスバニョス校にフィリピンサテライトキャンパスが設置されました。ロスバニョス校には、国際稲研究所（IRRI）及び東南アジア教育大臣機構農業高等教育研究地域センター（SEARCA）が位置し、国際的な研究環境と東南アジア諸国の人材養成という二つの特色を見てとることができます。名古屋大学のアジアにおけるこれまでの活動は、名古屋大学と当該国との二国間に係るものが中心でしたが、ロスバニョス校でのサテライトキャンパスには、国際的な共同研究及びアセアン共同体の人材養成という二つの機能が新たに加わっています。特に、2015年末のアセアン共同体の発足とともにアセアン共同体内の大学間の連携協力が急速に進むことを考えますと極めて意義深い国際貢献といえます。

アジアサテライトキャンパスを超えて

アジアサテライトキャンパス学院の活動は、各国で高い評価を得ていますが、各国から新たな要請が提起されています。その一つ、ウズベキスタン、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピンからは、大学教員の再教育にサテライトキャンパスを活用できないかという要請を受けています。また、様々な共同研究も提案されています。

このような名古屋大学のアジア展開はアジアサテライトキャンパス学院も含め、名古屋大学とアジア各国の大学との交流・共同研究の一過程です。これらは乗り越えられるものです。法整備支援が法制度の共同研究に、公務員の人材養成が大学教員の養成に、それぞれ進化しつつあります。常に変化する国際状況を踏まえつつ、大学の使命である人類の知的資産の「蓄積・伝達・創造」を基本に、そして、そのためにも多様性を求め、多様性の中から新たな知が創造される過程を大切にし、海外の大学と交流していくことは意義があると確信しています。

同窓生に期待すること

海外にいらっしゃる名古屋大学の同窓生の皆さん、皆さんの教育研究活動は大学を卒業して終わったわけではありません。国際開発、法整備支援研究、サテライトキャンパス学院博士課程教育等名古屋大学と共に学び、活動する機会はたくさんあります。積極的に参加ください。



2016年3月 フィリピンサテライトキャンパス入学式

ガーナの学校の自立支援活動

Activities for self-reliance of schools in Ghana

平成27年度第2回全学同窓会大学支援事業に採択されたガーナの学校の自立支援事業の目的および活動をご紹介します。

The following piece introduces stories about NGO based activities for self-reliance of schools in Ghana by a master course student who received subsidy sponsored by Nagoya University Alumni Association in 2015.

名古屋大学国際開発研究科2年 ガーナのこどもとshare step 設立者

土橋 啓泰

突然ですが、経営が行き詰り、微々たる栄養の食事しか提供できないアフリカの孤児院の現状を改善するとなった時に、どのようなサポートを考えますか？多くの方がお金を送ると言うかもしれませんが、私は緊急の場合を除いてお金は送らないでしょう。なぜなら、私は学生であり、学校が存在する限り半永久的に資金援助をできる保証が無いからです。仮に資金援助を毎月行ったとして、途中で私の都合で資金援助をストップさせた場合、孤児院に多大な迷惑がかかってしまいます。そのような無責任なことはしたくないと思い、学校に「投資」という新たな国際協力の方法に注目して活動しています。「投資」という支援は、学校が自分たちで資金を調達ができる手段を作るために投資を行う方法だと私は考えています。言葉を換えれば、私たちがいなくなっても将来は学校が自分たちの力で運営できるような仕組みを作れることを目標としています。

この活動を始めたきっかけは大学二年生の時に強く感じた無力感からでした。「何か自分ができることがあるのではないか。」という思いを持ち、某NPO法人に紹介された現在支援を行っている孤児院でボランティアを行うため、単身、ガーナに渡航しました。しかし、孤児院が子どもに十分な食事を提供できない現状を見たものの、資金も知識もない私は何も出来ず、ガーナを去るこ

とになりました。何もせずに帰ってきたので、帰国後、「アフリカに行ってすごいね」と周りから言われると、とても複雑な感情になりました。「アフリカは誰でも行ける」そう思うと、ただアフリカに行って現状を見ただけで満足している自分が嫌いになりました。このような感情から、「自分が何かしなくては」と思ったことが一人でNGOを設立したきっかけです。団体を始めた当時はアフリカに興味のある友人が皆無だったので、国際協力という名のイベントがあれば参加し友人の輪を広げ徐々に協力者を増やすことができました。また国際協力についての知識も持ち合わせていなかったため、本などを読んで勉強したことは今の活動に役立っています。

現在、孤児院の空き地に菜園と、2ヘクタールの土地を購入して農業を行っています。収穫ができれば子どもたちの食事に充てることができるということが農業に注目した理由です。しかし、今まで海外からの援助に慣れてきた孤児院には、すぐにお金が手に入らない状況をなかなか受け入れてもらえず、説得に数年もかかってしまいました。また、予算書もなく、どんぶり勘定でやりくりしていた学校で農地を買い農業を行うのは一苦勞です。時には、学校の経営者から口さえ聞いてもらえない期間が続いた時もありました。しかし、まず手始めに行った小規模の学校菜園の成功などが功を奏して、徐々に信頼



新たに始める新しい農地の見学 まだ木が生い茂っている



カフェにてガーナ料理を提供

関係を構築することができました。現在は購入した農地を伐採しトウモロコシの栽培に取り掛かっています。

また、日本の学生がアフリカを身近に感じられるようなきっかけを提供することも活動の目的です。私が最初にガーナに行った時、航空券とは別に巨額の参加費をNPOに支払いました。そのような大金を払わないと国際協力に関わることができない現状をどうにかしたいと思いつけています。そして、1人で始めた活動も13人のメンバーに恵まれ、現在までに8人の学生がガーナに渡航しました。渡航するだけでなく、ガーナを多くの人に身近に感じてもらう活動も不定期で行っています。アフリカといえばネガティブなイメージが付き物ですが、アフリカのイメージを払拭することも私の役目だと考えています。そのため京都でガーナ料理をカフェを借りて提供

するといったことに力を入れています。また、支援を頂いたことをきっかけに卒業生の方の中で少しでも多くの方がアフリカや国際協力に興味を持っていただくことができればうれしい限りです。

名古屋大学はガーナからの留学生が多く、留学生にはガーナの渡航をするうえでとても助けられています。また、ガーナにも名古屋大学のOBの方が駐在しており、お世話になっています。しかし、未だに名古屋大学の学生を十分に巻き込めていないのが現状です。今後は名古屋で学内外のイベントを通してガーナをもっと身近に感じることができる環境作りにさらに力を入れて取り組んでいきたいと考えています。今後とも応援のほどよろしくお願いたします。



今年の春に後輩がガーナに渡航した時の写真



キャッサバが成長して子供たちが喜ぶ

平成27年度第1回全学同窓会支援事業 地球家族プログラム：ホストファミリー登録者募集中！

～祝日や週末を利用して名古屋大学の留学生を自宅に招いて、交流してみませんか？～

名古屋大学には、世界100ヶ国近い様々な地域から約2000名の留学生が学び、本学のキャンパスは、まさにグローバル社会といえます。「地球家族プログラム」は、この恵まれた環境を活用し大学および地域における国際理解をさらに深めることを目的として企画されたものです。現在、名大同窓会会員でホストファミリーとしてご登録下さる方を募集しています。登録者には、留学生が日帰りでお宅を訪問するホームビジットや、1泊2日から2泊3日程度の短期ホームステイプログラムを、年間4-5回ご案内します。

詳細はアドバイジング部門ホームページをご覧ください：<http://acs.iee.nagoya-u.ac.jp/exchange/homestay.html>

お問い合わせは…

名古屋大学国際教育交流センター アドバイジング部門（ACS） 地球家族プログラム
電話：052-788-6117 E-mail：chikyu@iee.nagoya-u.ac.jp



活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第26回は、2003年本学大学院経済学研究科博士課程を修了された小西葉子さん、1992年本学教育学部教育学科を卒業された牧野隆広さんにお話いただきます。

The “NUAL People in Action” column features our alumni/ae playing active roles in various fields. For our 26th edition, we will hear from Dr. Konishi Yoko, who graduated from Graduate School of Economy in 2003, and Mr. Takahiro Makino, who graduated from School of Education in 1992.

こにし ようこ
小西 葉子さん



■略歴

独立行政法人 経済産業研究所 上席研究員

1999年に長崎大学大学院経済学研究科修士課程修了後、名古屋大学大学院経済学研究科博士課程に入学。同研究科を2003年に修了（博士号取得）。日本学術振興会特別研究員（PD）、一橋大学経済研究所専任講師を経て2008年より経済産業研究所研究員、途中日本学術振興会海外特別研究員として2年間 Yale 大学に籍をおき、2014年から現職を務める。専門は計量経済学で、最近は見えないサービスの質や生産性を測るための理論モデルの作成、データ収集、計測を研究課題にしている。

私は福岡で高校までを過ごし、「近代経済学を勉強するなら長崎大学がいいよ」と恩師に勧められて長崎大学（以下、長大）に進学しました。漠然と、ずっと九州にいたいと思い、在学中は九州地域限定で各種メディアを中心に就職活動しました。かなり熱心に就活しましたが、「自分の言葉で表現できるのかな」と疑問が湧き、もう少し勉強してから発信しようと、修士課程に進学しました。修士課程での2年はあっという間で、まだまだ勉強が足りないと感じ、博士課程で勉強を続けようと思いましたが、長大の経済学研究科は修士課程までしかなく、進学先を選ぶ必要がありました。当時、文系の博士課程進学者は少なく、親戚の中に研究者がいないこともあり、進学を決めることも、宣言することも、それを行動に起こすのも大変でした。田舎なので、「女の子は勉強なんてしなくていい。可愛げなくなる」なんて、今ならハラスメントととられるようなことも身内にも知人にもタクシーの運転手さんにも（！）たくさん言われました。そんな中、性別の区別なく進学先の相談に乗ると院生に広く声を掛けて下さったのが、名古屋大学出身の吉田高文先生でした。それがとてもうれしく、私にとっては光が差したように思えました。当時、すでに統計学・計量経済学に興味をもっていて、日本の教育投資と経済成長率に関する実証分析をしていたので、若くて教育熱心な先生の下で計量経済学を勉強したいと相談しまし

た。そして根本二郎先生を紹介して頂き、名古屋大学大学院経済学研究科（以下、名大経済）へ進学し、晴れて計量経済学のゼミに入ることができました。大げさかもしれませんが、男性、女性の区別なく勉強する機会を与えてもらえて名大は自由で懐が深いと感じました。また、当時から学内進学者だけでなく、留学生や私のような学外進学者も積極的に受け入れていて、区別なく仲間になれたのも嬉しかったです。名古屋は保守的という人もいますが、私には異質なものを受け入れて社会の中に溶け込ませることが得意という印象があります。当時、本山駅の徒歩圏内に、焼き肉、中華料理、台湾ラーメン、ベトナム料理、スリランカ料理、ネパール料理のレスト



名大の卒業式にて



Yale 大学でのオフィスメイトたちと



RIETI（経済産業研究所）の同僚たちと

ランがありました。全国様々な大学に学会などで行きますが、こんなに多国籍料理のレストランが近場にある大学はなかなかありません。そんな多様性を有した本山が自慢でした。

いま、霞が関で官僚の方たちと一緒に働いていて強く感じるのが、研究者は組織に属していても個人事業主だということです。良い結果も悪い結果も自分の行動や意思決定にのみ依存するというのを早い段階で意識することが研究者として長く活動していく秘訣のように思います。各大学が独自の大学院プログラムを持っていますが、名大経済を一言で表すと、見守り体制付き放牧スタイルです。人数が少なくてアットホームだけど、個々人は誰とも似てないし同じじゃないという認識を教員も院生も持ち、守られた自由の中で自律とセルフプロデュースをす

る練習を早い段階からしていたように思います。この意識は、私が卒業して今まで研究者としての自覚を持ち続ける上で大きな助けとなっています。

根本先生のご指導の下で生産性の計測法を研究テーマに選び、幸運にも経済産業研究所も経済産業省も生産性の計測は政策立案のために非常に重要なため、自分の強みを生かしながら研究が続けられています。現在は、ものを作らないサービス産業の生産性を計測するために、目に見えないサービスの技術、質、顧客満足の計測法の開発に挑戦しています。名大で未知のもの、異質なものに寛容にドアを開き、自分の中に取り込みながら新しい発見を続けることの大切さを学んだことが、卒業から今に至るまでの研究活動を続ける源泉となっています。

○全学同窓会・学士会主催 講演会・夕食会のお知らせ

講演会

日時：2016年12月9日（金） 16:00～17:30（開場15:30～）
 場所：名古屋大学理学南館1階 坂田・平田ホール
 講師：濱口道成 名古屋大学全学同窓会 顧問、学士会 代議員
 国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長
 前名古屋大学総長（第13代）
 演題：「科学技術の課題と展望」

夕食会

日時：2016年12月9日（金） 18:00～20:00
 場所：グリーンサロン東山 レストラン花の木

* 詳細は、名古屋大学全学同窓会 Web ページ (http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/lecture2016_hamaguchi.html)、Facebook ページ (<https://www.facebook.com/nualface>) にてご確認のうえお申し込みください。



濱口道成氏

まきの たかひろ
牧野 隆広さん



■略歴

1968年6月 名古屋生まれ
1992年3月 名古屋大学 教育学部 教育学科 卒業
1992年4月 株式会社電通国際情報サービス 入社
1994年11月 マイクロソフト株式会社 入社
2000年8月 株式会社インスパイア 入社
2002年2月 株式会社ウイングトップ 設立 代表取締役 就任
2005年9月 株式会社エイチーム 取締役 就任 (現任)
2009年10月 名古屋大学大学院 工学研究科 総合工学科目
ベンチャービジネス特論II 招へい教員 (現任)
2012年5月 株式会社ミライブプロジェクト設立 代表取締役 就任 (現任)
2013年10月 名古屋大学 経済学部 経済学科・経営学科関連専門科目
IPO 基礎講座 招へい教員 (現任)
2015年5月 一般社団法人未来マトリクス 理事 (現任)

【名古屋大学 教育学部を卒業後、IT 業界に就職】

大学で教育学を学ぶ中、MBA 教育に興味を持つようになり、卒業後は MBA 留学や海外赴任できる仕事に就きたいと考えるようになりました。就職活動を通してさまざまな業界の話聞いた結果、IT 業界に大きな将来性を感じ、当時、電通と米 GE の合弁だった電通国際情報サービスに入社しました。

【サラリーマン生活スタート】

新人研修後、名古屋支社配属となり、営業職として社会人の1歩を踏み出しました。徐々に営業が楽しくなり、数か月後にはじめての新規契約を取ることができました。このときの喜びは今でも覚えています。

2年目にトヨタ自動車さんを担当できることになった幸運があり、3年目に当時トヨタ自動車さん担当を探していたマイクロソフトに転職することになりました。

【マイクロソフトでの貴重な(?) 経験】

マイクロソフトに転職したのは Windows 95が出る約1年前です。日本でもマイクロソフトが目ざれ始めた頃でした。まだ数人規模の名古屋営業所の中の大企業向け営業第1号としての入社です。

入社して最初に送信した電子メールはビルゲイツ宛でした。躊躇なく入社挨拶を送ったような気がしますが、速攻で上司からも周囲の先輩社員からも叱られてしまいました。ところが、数時間後にビルゲイツから丁寧な返信があり、それを当時のマイクロ

ソフト日本法人社長の成毛真さんがマスコミに話してくれた結果、入社直後の26歳の平社員であるにも関わらず、取材を受け雑誌に掲載されるという幸運に恵まれました。成毛さんが社長じゃなければクビになっていたかもしれません (笑)。

マイクロソフトには6年在籍し、ビジネスに対する姿勢、考え方など多くのことを学びました。成毛さんや顧客のトヨタ自動車さんから学んだことは今でも鮮明に覚えていることが多く、2005年から取締役をしているエイチームの新入社員研修でも、受け売りで同じことを教えています。

【インスパイアで経営コンサルタント】

2000年に成毛さんがマイクロソフト社長を退任し設立したインスパイアに入社しています。ここで投資ファンドの運営と経営コンサルティングの手法を



ミライブプロジェクト新瑞橋オープニングメンバー



ミライプロジェクト新瑞橋（外観）

学びました。これまで営業職として製造業のお客様を中心に担当していたため、会計や金融の世界の用語やものの考え方がなかなか頭に入らず苦労したことが印象に残っています。

【起業して大失敗】

インスパイアで多くの社長さんに会い、事業計画を目にする機会が増えるにつれ、自分も社長になってみたいという思いが強くなり、2002年に独立、起業しました。

起業して資金繰りや決算などを経験した結果、インスパイアで学んだ会計の仕組み、金融機関さんの視点が本質的に理解できるようになったことを実感しました。やはり理屈で理解したつもりになっていたことも当事者になることで見え方や理解の深さが変わります。

結局、起業した事業では組んだパートナーとトラブルになり、全財産を失い、借金まで背負うことになりました。当時は「騙された。人を見る目がなかった。」と感じていましたが、後に冷静に振り返ると、自分にも反省すべき点が多かった気がします。

【エイチーム取締役に就任】

失敗した事業を整理し、経営コンサルティング会社に衣替えして東京で活動している中で、縁あって名古屋のエイチームと契約することとなりました。正社員0人、役員とアルバイト合わせて10名強の規模でしたがケータイ公式サイト事業が伸び始めていた時期でした。週に1日、短期のコンサルティング契



食堂兼機能訓練室

約で名古屋に通いはじめ、数か月後に取締役に就任しています。

エイチームでは10名程度の会社が500名規模になるまでを、取締役としてとても貴重な経験をさせてもらいました。

【再び起業し、デイサービス運営を開始】

エイチームの上場準備責任者として多忙な日々を過ごしていた2010年、父親がガンで他界し、母親が1人暮らしになってしまったため、生活の時間配分を変える目的で、エイチームが東証一部に上場した約1年後の2013年末に非常勤になりました。

母親の介護を意識する中で、介護業界への問題意識が高まり、以前から介護業界にいた弟とともにデイサービス施設を自前で建築して運営することを決めました。

これまでは営利企業で利益を追求してきましたが、この会社では営利事業で利益を出しながら、並行して介護、医療、教育など、地域貢献につながる活動を行っていきたいと考えています。

2016年9月1日に名古屋市南区にデイサービス「ミライプロジェクト新瑞橋」を開業しています。この施設の2階の部屋を名古屋大学レゴ部の部室として提供するなど、学生や子供たちにも使ってもらえる新しい事業形態を目指します。

株式会社ミライプロジェクトのウェブサイト URL
<http://www.miraiproject.co.jp/>

名古屋大学全学同窓会マレーシア支部創設される

名古屋大学全学同窓会代表幹事 伊藤 義人

平成28年2月21日(日)にマレーシアの首都クアラルンプールの中心街にあるヒルトンホテルのSentral Accord室で、名古屋大学全学同窓会の15番目の海外支部となるマレーシア支部の設立総会が行われました。マレーシアには、1990年代後半からだけでも110名を超える名古屋大学の留学経験者がいます。設立総会には、大学側からは松尾総長、教育推進部の三枝部長と鈴木さんにご出席いただき、全学同窓会からは、私が参加しました。連携委員会委員長の中野先生と同窓会事務の岡崎さんは、直前にインフルエンザに罹り欠席になりました。マレーシア側は、留学経験者19名とその子供達4名などが参加しました。最年長者は、支部顧問になられたシバプラガサムさん(Dr. Sivapragasam A., 1986年農学研究科修了)でしたが、多くはここ15年くらいの間の大学院修了生が大半でした。車で4時間もかけて駆けつけた人もいました。

マレーシアのクアラルンプールは北緯3度という熱帯で、日射はかなりきついです。日陰は風が吹くとすこししやすい気候でした。雨季明けでブーゲンビリアなどの花が咲いていました。

会場で、8時半からナファリザル支部長(Dr. Nafarizal Bin Nayan, 2008年工・電子情報システム専攻博修了、Universiti Tun Hussein Onn Malaysia 准教授)を始めとする役員候補者と打ち合わせを行いました。その後、マレーシアの同窓生だけで、支部設立準備会を再度行い支部役員が最終決定しました。正式な設立総会は11時から開始しました。設立総会では、原則日本語だけを使って行われました。留学経験者の同窓生は、ほぼ日本語がわかるようでした。司会は、マラヤ大学で日本語教育をされているジャミラ先生(Dr. Jamila Mohd, 2007年国際言語文化研究科修了、マラヤ大学上級講師)の流暢な日本語での開会宣言で始まりました。まず、松尾総長から、日本語と英語で挨拶がありました。1) マレーシア支部設立を大変喜んでいて、2) 名古屋大学には、47名の現役マレーシアの現役学生がいること、3) MATSUO INITIATIVE NU MIRAI 2020などの最近の名古屋大学の情勢、4) 今後も留学生を多く受け入れアジア諸国との交流に貢献するため、支部の支援を期待していることなどの話がありました。

その後、代表幹事の私から、1) 豊田会長の祝意をまず伝え、2) 支部設立のためお世話になった方々への感謝、3) 全学同窓会の設立の経緯や海外支部設立について説明し、4) 今後、名古屋大学の国際交流の拠点になることをお願いしました。5) 最後に、ナファリザル支部長を、全学同窓会が今年の10月15日(土)に行われるホームカミング日に招待することを述べました。15年目の全学同窓会の集まりで、15番目の海外支部としてマレーシア支部をご紹介することを伝えました。

挨拶の後、日本から持っていった支部認定書と支部旗を、松尾総長からマレーシア支部長のナファリザルさんに手渡していただきました。

その後、ナファリザル支部長から、就任挨拶がありました。1) 今回のマレーシア支部設立のために昨年春から調整をとっており、

2) マレーシアの同窓生は支部設立を大変喜んでおり、3) 今後、多民族国家のマレーシアの利点を活かして、ハラルフードなどの扱いなど、名古屋大学及び名古屋大学全学同窓会に協力したいとのことでした。挨拶の後に、11名の支部役員紹介が、スライドにリストを示しながらありました。

参加者全員の集合写真を支部旗と一緒に撮りました。また、支部役員と名古屋大学からの参加者の記念写真も撮りました。

この後、ハナフィア副支部長(Dr. Hanafiah Yussof, 2008年情報科学研究科修了、マラヤ大学講師)が開発した、直立歩行の2台の見事なロボットダンスが披露されました。大学教員と同時に2つの会社を創設して社長をされているそうです。このロボットはマレーシアで既に販売されていて、売れているそうです。

マレーシア支部から、ペトロナスツインタワー(452m、88階、20世紀の世界最高高層ビル)の模型が松尾総長に贈られ、大学からは絵皿を、また、全学同窓会からは日本のお菓子を支部長に贈りました。

設立式典は1時間半を予定されていたので、参加者1人1人から、自己紹介がありました。1) 名古屋大学時代は大変楽しかったこと、2) 日本から持ち帰ったトヨタ自動車の車が、14年間全く故障せず使っていること、3) 名古屋大学時代の勉強だけでなくスキーやバーベキューなどの思い出が話されました。この後で、松尾総長と個別の参加者が支部旗を入れての記念撮影が続きしました。

総会終了後、ホテルのロビー階(3階)にあるレストランに移動して、バイキング形式の昼食会が行われ、歓談を楽しみました。

昼食会終了、14時から名古屋大学から松尾総長はじめ4名の参加者は、ナファリザル支部長ともう1人の車で、王宮(5年ごとの9人のスルタンの輪番制)、マラヤ大学、市場などを見学させていただきました。

松尾総長の予定が立て込んでいたので、20日(土)に出発し、21日に設立総会を行い、その夜に飛行に乗り、22日(月)朝に帰国するという1泊3日の弾丸旅行になりました。松尾総長は、9時58分に大学に到着され、10時から役員懇談会を主催されました。お忙しいところ、日程を裂いていただき厚くお礼申し上げます。マレーシアから、直ぐに支部設立のお礼のメールがきました。



参加者の集合写真

大学支援事業目録贈呈

平成28年4月14日（木）、平成28年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成27年度第2回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、9件の応募総数から、表の7件が採択されました。

平成27年度第2回 採択事業

所属・職名等	申請者	事業名
国際開発研究科国際開発専攻 1年	土橋 啓泰	ガーナの学校の自立支援事業
附属図書館医学部分館 特任専門員	蒲生 英博	「名古屋大学メモリ」創基から新制名古屋大学へと至る歴史資料解説図録の発行と、インターネットによる公開
教育発達科学研究科 准教授	久野 弘幸	公開シンポジウム「教師教育における総合研究 大学の役割」の成果の卒業生への普及と還元に関する事業
教育学部人間発達科学科 1年	菊地原 守	学習支援団体*学ほまい
工学部電気電子・情報工学科 2年	池上 幸佑	第57回名大祭
情報文化学部社会システム情報学科 2年	班 澤昆	「TEDxNagoyaU」
学術研究・産学官連携推進本部 研究員	玉井 克幸	アジアに向けた情報発信・名古屋大学プロモーション冊子の発行

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。



採択された事業代表者の方々

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、東京神田の「学士会館」地下にある名古屋大学東京連絡事務所にて、各部局同窓生幹事による幹事会を開催しており、全学同窓会のミッションを果たすべく、努力しております。

◎2016年度活動計画

1. 名大本部の会、支部会への参加・アジア法交流館落成記念講演会（3.11-12）・関西支部総会（5.14）他
2. 第12回ホームカミングデイ参加
3. 第3回全学同窓会・学士会共催「講演会・夕食会」開催への協力
（平成28年12月9日 16:00-17:30）
講演者 濱口道成 氏
4. 学士会 会員増強委員会参画など展開中。学士会共催の「七大若手会」にて、丹羽宇一郎全学同窓会副会長・関東支部長講演 参加者より学士会入会者あり。（7.23）

■連絡先 関東支部事務局長 片岡大造
E-mail kataoka@sol.dti.ne.jp

◎名古屋大学農学部同窓会（セコイア会）関東支部より

平成28年7月1日付で、HP が立ち上がりました。

【名称】名古屋大学農学部同窓会（セコイア会）関東支部

【URL】 <http://www.nua-alumkanto.net/>

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名古屋大学遠州会同窓会は第11回総会・第21回同窓会懇親会を平成28年6月18日（土）夕刻より浜松市内のホテルにて、来賓として松尾総長と伊藤全学同窓会代表幹事をお迎えし、会員60名が出席して開催しました。総会開始前に集合写真を撮り、総会では庄田会長の挨拶のあと、来賓の松尾総長から松尾イニシアティブ「NU MIRAI 2020」の狙いと現在の進行状況について詳しくお話を頂きました。5年後の名古屋大学の姿に大きな期待を抱くことが出来ました。続いて平成26年度、27年度の事業報告、会計報告・監査報告、役員改選と会則変更の審議を行い、南方陽さん（理 S38M）が会長に、黒木辰芳さん（法 S45）と長嶋孝昌さん（医 S41）が副会長に選任されました。総会終了後会場を変更しての懇親会では南方新会長の挨拶の後、伊藤代表幹事から「全学同窓会の14年のあゆみ」と題して、全学同窓会の創設の経緯、海外支部と国内支部

の現状、同窓会の活動と課題について、スライドを利用してご講演をしていただきました。その後会食を始め途中、会提供の名大オリジナル商品や幹事提供の品物を景品としたビンゴゲームを実施し、老若男女大いに盛り上がり和やかな会となって、19時30分終了しました。今回の同窓会の様子は翌日の地元紙2誌に写真付きで掲載されました。

■連絡先 名古屋大学遠州会同窓会事務局長 原田憲道
E-mail ensuhrd@yahoo.co.jp



出席者集合写真

関西支部 NUAL Kansai Branch

全学同窓会関西支部第11回総会開催

平成28年5月14日（土）14時から、名古屋大学全学同窓会関西支部第11回総会が、大阪市内の中央電気倶楽部において開催され、会員約250名が出席しました。

総会では、三洋化成工業(株)名誉顧問 寛 哲男全学同窓会関西支部長の開会挨拶で始まり、その後、ノーベル物理学賞を受賞された天野浩先生の講演会が行われました。

天野浩先生の講演は、会員の皆さんにとって大変刺激的な興味深いお話であり、講演後には何人もの方が熱心に質問をされました。

休憩をはさんだ後、ピアニストの Arico 様より、「若き我等」など3曲のピアノ演奏があり、会場を落ち着いた雰囲気心地よい空間に演出して頂きました。

その後、松尾総長から、「世界屈指の大学を目指して NU MIRAI 2020—名古屋大学の挑戦—」と題した講演があり、引き続き、伊藤義人全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の昨年度の活動・財政状況および今年度の事業計画等について報告がありました。

また、今年度も天野先生の講演に併せて、ノーベル賞関連のパネル展示や名大オリジナル LED 関連グッズの販売や、記念の集合写真の撮影を行い、参加者に大変喜んで頂きました。

総会・講演会後の懇親会には、約100名が参加されました。寛支部長より今回の総会をもって支部長を交代するとの報告と謝辞があり、その後、藤井眞澄新支部長が紹介されました。新旧両支部長からの挨拶のあとは、例年のように、部局支部同窓会の代表者から近況報告があり、大変和やかなうちに終了しました。

■連絡先 関西支部事務局長 脇田喜智夫
御所南法律事務所 TEL 075-253-0777
E-mail office@goshominami.jp



天野教授講演会の様子

国際言語文化研究科同窓会

国際言語文化研究科は、平成29年（2017年）4月に文学研究科、国際開発研究科国際コミュニケーション専攻と統合して、新しく人文学研究科になります。本年度はその設立説明会を兼ねて、7月2日（土）に3部局合同でオープンキャンパスを開催しました。全体会では新研究科の紹介と入学試験の説明が行われ、次いで各専門に分かれて進学や留学に関する個別相談が行われました。また、大学院生によるポスター発表も18本行われました。来場者は大学院での研究に熱意を持っている人ばかりで、自分の研究について熱心に教員や大学院生たちに相談していました。

新研究科の専門は、言語学、日本語学、日本文学、英語学、英米文学、フランス語フランス文学、ドイツ語ドイツ文学、中国語中国文学、日本語教育学、英語教育学、応用日本語学、哲学、西洋古典学、中国哲学、インド哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学、美学美術史学、考古学、文化人類学、映像学、日本文化学、文化動態学、ジェンダー学の各分野と、英語高度専門職業人学位プログラム、多文化共生系学位プログラム、G30（「言語学・文化研究」プログラム、「アジアの中の日本文化」プログラム）です。これまで3部局に分かれていた人文学系の教員が一か所に集まることにより、今まで以上に多様で厚みのある研究科となります。修了生の皆様には引き続きご支援を賜りたく存じます。

■連絡先 国際言語文化研究科教授 杉村 泰
E-mail sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp
<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>



オープンキャンパスの進学相談

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

留学生防災意識啓発のためのニュースレター

エマニュエル レレイト
申請代表者：Emanuel LELEITO
(工学研究科国際交流室・講師)

本事業の留学生向けニュースレターやパンフレットの作成・配布により、2015年度名古屋大学で開催された防災啓発活動の情報を広く発信することができた。結果として、これらの防災啓発活動への参加希望者がこれまで以上に多くなり、本事業が留学生の防災意識向上に貢献したと確信している。ニュースレターで取り上げた留学生向け防災意識啓発活動例は：(1) 留学生防災セミナー2回（総参加者数70名）、(2) 日本赤十字の講師による救命講習1回（講習内容の都合上25名の枠に63名の参加希望者）、(3) G30プログラムの「Preparedness for Imminent Natural Disasters」の受講生による留学生向け防災ゲームワークショップ1回（参加者数19名）、(4) 留学生の防災意識啓発と日本の防災文化を勉強するためのスタディーツアー（3回→①地震災害をテーマにした神戸市の人と防災未来センターの訪問、参加者数：41名、②水害と防災文化をテーマにした木曾三川訪問、参加者数：39名、③伊勢市おはらい町で観光と防災をテーマにしたワークショップ、参加者数：45名）。nu-iSPANの宣伝活動により、それぞれのスタディーツアーに応募した学生数は平均して約180名で、バスの定員を大幅に超えた。上記の活動の一部は国内新聞やテレビに取り上げられた。

また、本事業により、留学生および外国籍の教職員の防災意識向上を目指す学生主導型活動組織である Nagoya University International Student Preparedness Activity Preparedness Network (nu-iSPAN) の活動が本格的に始まった。「留学生防災意識啓発のためのニュースレター」は今後も nu.iSPAN の重要な活動の一つとして、印刷媒体だけでなく、インターネット（ホームページや SNS など）に焦点を移し、継続していく予定である。そのため、nu.iSPAN 専用ウェブサイ

ト (<http://www.prepared.jp/ispan>) を整備し始めている。インターネットを活用することで、世界をリードする日本の防災関連文化と技術を国内の他大学の留学生や海外にまで「情報発信」ができ、「情報交換と人的交流」の促進も期待できる。

グローバルプレゼンテーション大会 プレゼンテーションアワー ～世界が広がる22秒～

申請代表者：井上美里
(文学部フランス文学専攻4年)

グローバルプレゼンテーション大会は、「Pechakucha」というプレゼンテーション形式を参考に実施した。「Pechakucha」は、講演者が20枚のスライドを1枚あたり20秒使ってプレゼンテーションを行う形式である。この形式によるプレゼンテーションのイベントは世界で開催されており、多くの大学や教育機関でも授業やプレゼン大会等の発表形式として用いられている（詳しくは <http://www.pechakucha.org> を参照）。本大会は、キャンパス内において分野を超えたアカデミックな交流の場を創出し、留学生と一般学生の交流を一層深めることを目的として、年2回開催した。公募及び推薦で集まった一般学生、留学生、学外からのゲスト6、7名が講演者となり、英語または日本語によるプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションのテーマは研究内容の紹介、自国の紹介、趣味、留学体験など多様で、観客は文理系問わず様々な分野のプレゼンテーションを楽しむことができた。参加者数は、6月の回が30人程度、12月の回では50人程度であった。司会による通訳も行ったため、各プレゼンテーション後の質疑応答では留学生、一般学生共に活発なディスカッションが行われた。また各プレゼンテーションの合間には、参加者や講演者が交流することで学内におけるネットワーキングができる時間を設け、リラックスした雰囲気の国際交流の場にもなった。参加者からの評判も非常に高く、次回講演者やスタッフとして参加したいという声もあり、今後も引き続き開催していきたい。



伊勢市おはらい町「観光と防災」ワークショップ



イベントの様子

多様な学生への理解促進・就業支援のための部門間連携事業

申請代表者：佐藤剛介
(学生相談総合センター障害学生支援室 特任講師)

本学構成員の多様性が拡大していく中で、学内全構成員による多様性の理解の促進や、多様な人々に対する大学の支援体制の充実が急務である。そこで、本事業では、これらを進めていくことを目的として、学内で多様な人々の支援を実践している、学生相談総合センター障害学生支援室、同センター就職相談部門、学術研究・産学官連携推進本部ビジネス人材育成センター、国際教育交流センターキャリア支援部門、業務支援室の5つの部署による連携のもと、1) シンポジウムの開催、2) 学内現況調査、3) ピアサポーター研修会、4) ワークエクスペリエンスプログラム、の4つの事業を展開した。それぞれの取組について紹介する。

シンポジウムの開催 多様な人々に対する理解を促進するため、学内の構成員、近隣の企業や大学関係者にも周知をし、「多様な人々と共に働く世界の実現に向けて」というタイトルでシンポジウムを開催した。日本 IBM (株) をはじめ、多様性の促進に力を入れている企業や大学の先進事例を通じ、多様な人々を受け入れる利点や、その受け入れの推進を実践していくための方策等を学ぶ機会とした。学内外から138人が参加した。

多様性理解に関する学内現況調査 教職員を対象とした多様な人々に対する意識やその受け入れに関するウェブアンケートを実施した。障害者差別禁止法の理解や留学生向け就職支援イベントの認知度、業務支援室に関する知識などを尋ねるとともに、多様な人々への支援に関する学内のニーズを明らかにすることができた。アンケートには709名が回答した。

ピアサポーター研修会 多様な人々が学びやすい環境づくりの一環として、障害学生支援、学生相談、就活、留学生支援を行っている学内ピアサポーターに対する合同研修会を開催した。ドリームマップの作成を通じ、将来のキャリアについて考えることで、サポーターとしての資質の向上を図った。19名が参加した。

ワークエクスペリエンスプログラム 本人の特性上就業機会に恵まれなかった学生4名(精神保健福祉手帳所持者含む)に対し、就業体験を通じた自己特性理解を目的として、学内における



ドリームマップワークの様子

有給インターンシップ・プログラムを提供した。学生たちは計9回の就労支援関係イベントにおいて運営関係の様々な仕事を行った。実際の就業及びそれに対する専門家のフィードバックを受けることを通じて、学生にとって自身の能力などの自己認識を高める機会となった。

第57回名大祭

申請代表者：池上幸佑
(工学部電気電子・情報工学科3年 名大祭本部実行委員会 委員長)

第57回名大祭は6月2日(木)午後から5日(日)の3.5日間行われた。今年度は約8万人の方々に来場していただいた。ここ数年の中で来場者数は最多となり、ステージや模擬店、メインストリートを中心に大きく盛り上がった4日間となった。今年度は特に平日において例年以上の盛り上がりを見せた。

名大祭では演劇・合唱・伝統芸能・絵画といった学内の部活・サークルの発表など、計150以上の企画が行われた。ステージでの大きな企画をはじめ、来場者参加型の小規模企画に至るまでの全企画で出演者と来場者が一緒になって楽しみ、学園祭という楽しい雰囲気を作り出すことができた。これらのエンターテインメント的な企画に加えて、名古屋大学という総合大学の特色を活かした学術企画も数多く行われ、学内の研究内容を公開する「研究公開」では、世代を問わず多くの来場者の方々に普段見ることのできない研究の実績への興味を示していただいた。

また特に、レンタル経費を助成していただいた LED 照明を用いた装飾を行った豊田講堂前庭及び第1グリーンベルト周辺では、日没後も多くの来場者が訪れていた。特に盛り上がりを見せた企画としては、最終日に豊田講堂前特設ステージで行われた後夜祭などがあげられる。地域の団体による和太鼓演奏のパフォーマンスや、火舞、毎年恒例の後夜祭ダンスや、今年初の試みであった模擬店コンテストといった企画が行われ、名大祭の終わりを華々しく締めくくった。

このとき、第1グリーンベルト内に、名大祭本部実行委員会の所有する LED ライトによる装飾と、レンタルさせていただいた LED 照明による通路の装飾が調和し、完成度の高い装飾を行うことができた。これによって、後夜祭などの暗い時間に行われる企画へ来場者を誘うことができ、また、帰路を楽しく且つ安全なものとすることができた。



特設ステージの様子

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 平成28年度 鏡ヶ池会東京支部総会

日 時：平成28年11月18日（金） 18:30～20:30
場 所：主婦会館プラザエフ 地下2階 クラルテ
<http://www.plaza-f.or.jp>
〒102-0085 東京都千代田区六番町15番地
TEL 03-3265-8111（代表）

今年は、三輪富生先生、田代喬先生ほかにご出席していただく予定です。

※特に、20期以降の若手～中堅の方のご参加をお待ちしております。

連絡先：幹事 株式会社大林組（幹事は今年より会社単位の輪番制に変更しました）
支部長：同東京本店 土木事業部 企画部長 今枝靖典
〒108-8502 東京都港区港南2-15-2 品川インターシティB棟 TEL 03-5769-1256
E-mail: imaeda.yasunori@obayashi.co.jp

2) 第19回名古屋大学農学部同窓会関東支部総会

日 時：平成28年11月19日（土） 13:10～17:10
場 所：學士會館 203号室
〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28
電話：03-3292-5936
アクセス：地下鉄・神保町駅下車（A9出口）徒歩1分（地下鉄三田線・新宿線・半蔵門線）

次 第：

- (1) 総会報告 支部現勢と支部 HP の開設
支部長 石川 靖文
幹 事 春日井 治
- (2) 特別講演 1 「コンパニオン・アニマル」と暮らす(仮題)
日本大学生物資源科学部 教授
甲斐 藏（おさむ）先生
- (3) 特別講演 2 ビジネスつれづれ草 in Bangkok (仮題)
OMIC 海外貨物検査株式会社
原田亜由美さん
- (4) 懇親会 なないろ桜で乾杯！

問合先：E-mail: alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

掲載HP: <http://www.nua-alumkanto.net/>

3) 東京キタン会 秋の催事ご案内

筑波宇宙センター及びワープステーション江戸見学
日 時：平成28年11月19日（土） 10時30分～16時30分
集合場所：つくばエクスプレスつくば駅（貸切バスを使用します）
見学場所：筑波宇宙センター及びワープステーション江戸
食 事：ホテルグランド東雲
会 費：6000円（ご夫婦でのご参加はお二人で10000円）
申込締切：平成28年10月21日（金）
申込方法：郵便局または銀行振り込み前払い方式

①郵便振り込み

①郵便局より振り込む場合

記号 10150 番号 15639701 口座 東京キタン会

②他の金融機関より振り込む場合

店名 〇一八（ゼロイチハチ） 店番 018 普通預金
口座番号 1563970 口座名義 東京キタン会

②銀行振り込み 三菱東京UFJ銀行飯田橋支店 普通預金

口座番号 1085379 口座名義 東京キタン会

準備の都合上、11月4日以降のキャンセルにつきましては会費返礼致しませんので、ご了承ください。

連絡先：東京キタン会事務局 森本重彦

〒165-0031 中野区上鷲宮5-29-5-213

TEL/FAX 050-5803-8703 携帯 090-3109-3974

Eメール mrmsg00@ae.em-net.ne.jp

○関西支部

1) 東山会関西支部 総会・講演会・懇親会

日 時：11月12日（土） 15:00～ 大阪コロナホテルにて
内 容：第54回総会等では、名古屋大学大学院 工学研究科の松本健郎教授を講師にお招きしてバイオメカニクスについて御講演いただきます。

2) 名古屋大学農学部同窓会関西支部総会

行事内容：総会、講演会（オーストラリアのタスマニアについて入野哲朗氏にご講演いただく予定です）、および懇親会

日 時：平成28年11月5日（土） 10:00～15:00

場 所：中央電気倶楽部（大阪市北区堂島二丁目1番25号）

事務局連絡先：寺前朋浩

〒669-1103 西宮市生瀬東町37-23

E-mail: rikatomo@ares.eonet.ne.jp

3) 関西名法会（法学部）

恒例行事：年1回の総会・講演会・懇親会

今年度の総会予定

開催日時：平成28年11月19日（土）

講演会 11:00～12:00

講演：元名古屋地方裁判所長・弁護士

加藤幸雄 氏（S48卒）

演題「裁判官時代の思い出」

昼食・懇親会 12:00～13:30

場 所：中央電気倶楽部 大阪市北区堂島浜2丁目1番25号

（TEL 06-6345-6351）

責任者問合せ先：会長 脇田喜智夫（S50卒）

E-mail: office@goshominami.jp

○名大遠州会第22回同窓会

日 時：平成29年6月10日（土） 18:00～

場 所：オークラアクシティホテル浜松

連絡先：名古屋大学遠州会同窓会事務局 原田憲道

E-mail: ensuhurd@yahoo.co.jp

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円
支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**13,500名**を超えています。



年会費永年無料! 家族会員様も1名様に限り無料。
ポイントがたまる! 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

◆名古屋大学 MUFG CARD Platinum American Express® Card

プラチナ会員様限定の上質なサービスと快適性を兼ね備えた、最高の1枚。



- プラチナ会員様専用の特別なサービスを多数ご用意
- 初年度年会費半額優遇キャンペーン実施中

20,000円(税別) ⇒ 10,000円(税別)

※キャンペーン期間が延長となりました! 2017年3月23日(木)まで
名古屋大学全学同窓会事務局到着分まで

～プラチナ会員様専用の特別なサービス～

- ・プラチナ・コンシェルジュサービス
- ・海外空港ラウンジサービス プライオリティ・パス
- ・プラチナ・グルメセレクション
- ・手荷物空港宅配サービス
- ・アメリカン・エクスプレス・コネク

入会方法について

① WEBからのご入会を希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX: 052-783-1920 (受付: 9:00～17:00)

名古屋大学 MUFG カード・プラチナ・アメリカン・エクスプレス®・カードはアメリカン・エクスプレスのライセンスに基づき三菱 UFJ ニコス株式会社が発行・運営しております。「アメリカン・エクスプレス」はアメリカン・エクスプレスの登録商標です。

●カード優待サービスの企業を募集しています。

●ニューズレターへの企業広告を募集しています。

いずれも詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

今号特集の名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院開設の背景および取り組みは、読者の皆様には「名大のアジアへの展開および名大のアジア力」についてご理解いただけたのではないかと思います。ガーナの学校の自立支援に勇気と知恵で積極的に活動している本学の大学院生のお話を讀んだら、我が大学は本当に「勇気ある知識人」を育てたことを大変強く感じています。活躍する会員たちのコーナーでは、「自由闊達」な学風で育てられた同窓会会員たちの様々な挑戦への勇気と簡単にあきらめない姿をよく見られました。これは在籍生にとって大変有意な激励になると信じています。引き続き同窓会会員の皆様のご支援どうぞ宜しくお願い申し上げます。(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.26 平成 28 (2016) 年 10 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集: 名古屋大学全学同窓会広報委員会